

全国

長

南

会

通信

73

号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 029-887-3190

発行日 : 令和 05 年 02 月 28 日

## 長南和泉守道本の活躍

長南和泉守は 1580 年頃に生まれたが、生まれた所やその父母の名はわからない。ただその父のものらしいじゃくじょういんでん 寂靜院殿 という戒名が残っているだけだ。

和泉守はぜんちまる善智麿から 30 代目くらいに当たり、正式には長南和泉守すがわらみちもと菅原道本という名前だ。長南氏が武田氏に征服された時から 100 年以上になり、長南氏の大部分はこの頃里見氏に仕えていた。この頃の里見ぶげんちよう氏の分限帳（武士の禄高名簿）に長南源兵衛という名前がある。

和泉守が家をついだのは、織田信長が本能寺で討たれて、そのあと豊臣秀吉が天下を取り関白となった翌年の 1585 年だ。

4 年後の 1590 年には、秀吉が小田原城をかこんで北条氏を滅ぼしたのだが、これだけの大家が倒れると、味方していた千葉氏も亡び、房総地方の 48 城が、たちまち落城して徳川家康に降参したというのだから、関東地方の出来事としてはまさに有史以来



安房館山城

の大きな事件といえよう。

この年家康は関八州をもらい江戸城に入った。そしてその 5 年後に秀吉が死ぬのである。

秀吉の家来たちは、これからの新しい実力者としての家康につく者と、あくまで豊臣家の味方としてつくそうという人と 2 つに分かれたが、とうとう関ヶ原で 2 つの勢力がぶつかり合い家康が勝ち、3 年後には將軍となり江戸に軍事政権を立て幕府を開いたのである。

しかし、全国には、豊臣家が再び力を得てとよとみひでより豊臣秀頼をもちたてて、秀吉時代の栄光の世に戻したいという勢力が強かったのでこれら新旧勢力の対決は時間の問題だった。



家康は天下に目をくばりつつ、おりをねらっていたが、京都の方ほうこうじ広寺の再建をめぐっていいがかりをつけ、大坂城へ宣戦を布告した。ところが2ヶ月もしないで停戦協定を結ぶ。しかし翌年家康の挑発にのった大坂城が再び立ちあがったのでこれを攻撃するために大坂城を包囲する。1615年大坂夏の陣である。

里見家に仕えて、裏水軍の大將をしていた長南和泉守をはじめ里見の家臣たちは、前年幕府によって主家里見氏が滅ぼされ、家康のやり方に対し大いにうらんでいたのので、豊臣方が家康に攻められると聞き、大坂へかけつけて西軍に加わるもののがかなりいて、和泉守もその1人だった。しかし、大坂方はあっけなく敗れてしまった。

## 寒風沢島へ

和泉守は、もはや房総の地にいられなくなったので一家をまとめ、興津おきつという港から舟で出航し、一旦霞ヶ浦の青宿に寄った後、北へ向かって松島湾の最も外側の島の寒風沢島さぶさわに着いた。

この島には、すでに里見の家来でここに来ていた人もありひとまず安全だったが、生活は苦難に満ちたものだった。約30名の大勢で、この小さい島にいつまでもいられず、一族は分かれることになり、東北地方の各地へ落ち延びて行った。

この島に落ちてきたとき、和泉守は男の赤ちゃんをふところに抱いてつれていた



松島湾



長南会有志により発掘された和泉守の墓。発見当時は斜に割れていたものを修復し、寒風沢島の共同墓地に設置し、供養式が行われた。

が、この子の母親はすでになくなっていった。島の人のお世話になり、となりの野々島との間の海峡に船を浮かべ、船から寒風沢の島へ通い、がけを崩したり谷をうめたりして生活しやすいように工事をして、3年目にやっと上陸して島のくらしに移った。

この間も、豊臣家から徳川幕府打倒に立上がるという知らせがあったら、いつでもかけつけられるようにと、かぶと、刀などを使えるようにしていたという。

しかし、幕府の力は日増に大きくなり、豊臣家を再び興すことはできないことがはっきりしたので、和泉守は武士をやめて、得意の船を使ってこの地方の物資を江戸へ、江戸からの品物を積んで帰るとい海運業を始め、これがうまく当たってやがて生活も楽になった。

そこで、長男の茂左衛門もざえもんを石巻に分家させて同じ廻船問屋をはじめさせたが、これも時代の波にのり繁盛した。和泉守の跡取りはもくのすけ奎之助というが、幕府から浦役人うらくにんに任命され、刀をさして寒風沢の港の仕事を監督した。

1640年には、松島湾にある伊達家と長南家の菩提寺である瑞巖寺の雲居和尚から賞状をもった。賞状は次のような内容である。

「松には、赤松と黒松があるが、松島にはもともと赤松ばかりで黒松はなかった。ところが、寒風沢の長南和泉守が浜松地方から黒松の種をもってきて、ここの海岸や島々に植

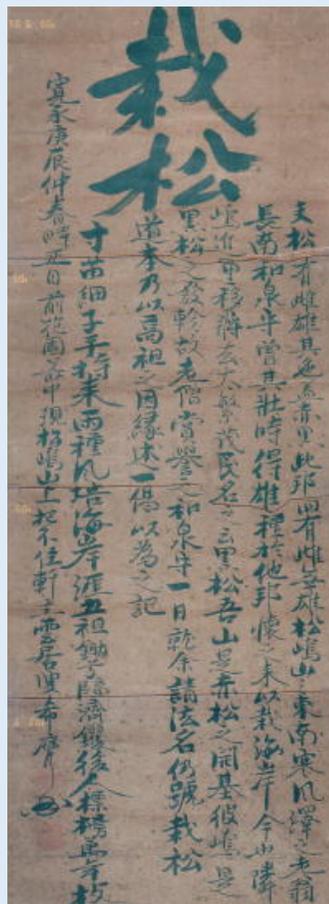
えてくれた。それが大きくなって島々浦々がみごとな風景となった。これは和泉守の大きな功績と言わなければならない。その後和泉守が法名をつけてくれるように希望したので裁松道本とつけてあげた。」

すなわち、俳人松尾芭蕉<sup>まつおばしやう</sup>や世の人々が松島を天下の名勝とたたえ、今も松島が観光名所となっているのは、長南氏の祖先である和泉守がこうして松を植えたことも大きな力となったことはまちがいない。

中村就一 「長南氏の研究」より



裁松記念碑（瑞巖寺）



裁松賞状（原本）1640年 寛永17年

『波光る』 釜石 船本音羽

老松と老杉に声あり瑞巖寺  
遠つ御祖の勲を知る  
松島の八十島かけて緑濃き  
松を揚げばただに懐かし  
松菁り海また光る寒風沢に  
裁松信士が裔ら集える

和泉守は正式名は長南和泉守道本という。江戸時代、この和泉守は官職名で、長南荘に居たころか、或いは里見氏配下の時代に賜ったものかわからないが、宗家が世襲するものだ。

柳生<sup>たじまのかみ</sup> 但馬守<sup>いよのかみ</sup> 十兵衛、源伊予守<sup>ちくぜんのかみ</sup> 義経、羽柴<sup>ちくぜんのかみ</sup> 筑前守 秀吉など地域の名称のものがあるが、必ずしも地域の領主とは

限らない。また、浅野<sup>たくみのかみ</sup> 匠頭 長矩、井伊<sup>かもんのかみ</sup> 掃部頭直弼など職業の名称もあるがこれも単なる官位の呼び名だ。和泉守道本の道本は名前だが、諱<sup>いみな</sup>といい、他人が呼ぶことは忌み嫌うという理由で、官位名で呼んでいた。現在も「〇〇社長」「〇〇部長」などと呼ぶのはその名残かもしれない。

# 長南和泉守の軌跡

長南氏は戦国時代に長南荘から安房里見家に仕えたが、やがて里見家改易により安房から常陸国鹿島を経由し、霞ヶ浦を渡り青宿に一時居住し、その後海路松島湾の寒風沢島に移った。このことは、1600年の初めに、霞ヶ浦南岸から、現在の龍ヶ崎市周辺の利根川北部が仙台伊達藩領であったことや、現在の鹿島市の一部に里見藩の飛地があったことなどを考えると、当時は和泉守、里見家と仙台藩伊達家とは、交流があったことが考えられる。

龍ヶ崎市の歴史資料によると、「伊達政宗は、慶長11年(1606年)に徳川家康から常陸河内郡と信太郡26ヶ村(1万石余り)を与えられ、現在の龍ヶ崎市域の一部は仙台藩領だった。政宗は、龍ヶ崎村に陣屋を構えて代官を置き、常陸国における仙台藩領支配の中心地としたため龍ヶ崎は繁栄した。」

とあるように、阿見町青宿は河内郡、信太郡11ヶ村に含まれることから、里見家と伊達家とに何らかの関連があったことが伺える。



和泉守は里見家の船出奉行であったことから、里見氏鹿島3万石の飛地と館山の本城を数度ならず往復していた。その折、霞ヶ浦湖辺を物色して、青宿の地を視察しておいたとも考えられる。そして、和泉守が主家里見氏の改易に際し、物資の運搬や後始末に奔走したことは、当時の長南氏一族の団結があったからこそだと思われる。



青宿鹿島神社の鳥居

## 寒風沢島へ

船本音羽氏の資料に、「1. 青宿は今から360年以前に、房総半島から船団で来た武将（長南和泉守か？）が一時期、ここに居を定めたが、その後再び船団を率いて北へ去った。その時ここに残された長南佐馬助の他六士を中心に開拓された。2. 部落の守護神である鹿島大明神は1630年頃の創建といわれ、かつて里見氏の領地があった鹿島の鹿島大明神の分霊を移して奉祀したものといわれている。3. 鹿島明神社は長南氏の氏神として、あくまで民族的なものだったが、後にこれを開放して部落の氏神として祭りをするようになった。」

かくして、和泉守率いる長南船団は、途中幾多の危難を突破して、伊達藩領陸前国宮城郡松島浦寒風沢島にたどり着いた。元和元年（1615年）の年末であったという。

その後寒風沢島と向いの野々島との寒風沢水道に船を停泊させ、島の崖を崩し、埋め立てをして長南氏一族の住む土地を開拓して、完成した後に寒風沢島に上陸したと思われる。



寒風沢島から見る野々島

そして江戸時代の270年、明治、大正、昭和を経て、現在10世帯強の長南一族が寒風沢島で暮らしている。

平成19年9月、和泉守墓の改修記念行事を寒風沢島で行い、全国各地から50人ほどの長南一族が結集し、法要を行った。

2011年の東日本大震災の時は、松島湾を津波が襲い、島の人たちは大きな被害を被ったことは記憶に新しい。

その昔、房総からこの地へやってきた長南和泉守と36士はどんな暮らしをしていたのだろうか、島の開拓が終了し、先祖が力を合わせて農業や漁業をしていたかもしれない。共同墓地に続く細い坂道から見える田んぼや海を思い浮かべると映画のシーンのように当時の人たちが働いている様子が見えてくるようだ。



長南和泉守と36士法要 2007/09 寒風沢島にて

# 決算報告

2022/01/01 ~ 2022/12/31

摘要	収入	支出
会費	295,000	
受取利息	2	
和泉守墓管理費		70,000
紅花祭協賛金		10,000
長南会通信印刷代		23,264
長南会通信発送代		21,826
旅費交通費		65,375
通信費		4,650
接待交際費		-
事務用品費		10,622
図書費		3,280
雑費		6,902
合計	295,002	215,919

現金	43,332
普通預金	631,401
当座預金	9,260
残高	683,993

前期繰越	604,910
収入	295,002
支出	215,919
残高	683,993

## 令和5年度 年会費納入のお願い

振替用紙を同封しますので、年会費1口2,000円をお振り込みください。  
郵便局のキャッシュカードをお持ちの方は、振替用紙を使用しないでATMから次の口座にお振り込みください。

**全国長南会 記号 10650 番号 13085711**

ATMからだど、手数料（会負担）が無料になります。

全国長南会の運営のため、ご協力お願いします。

## 節分

私たちの子供の頃は、節分の日に「鬼は一外、福は一内」という子供の声が聞こえたが、最近では聞かれなくなったが、年男が疫病や災いが家、家族に降りかからないように、豆をまいて、邪気を祓い清め、一年間の無病息災祈る行事として行われる。

この節分、2月3日というイメージが強いが、2月2日や4日になる年も稀にあり、日にちは



固定ではない。

節分という言葉には、季節を分けるという意味があり、本来は季節の始まり日である二十四節気の「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のすべてを指す。

節分に飾られる柗鯛（ひいらぎいわし）。

節分にあたり、古くからの風習として伝わって

いる飾りは、柗の枝に焼いたイワシの頭を刺した「柗鯛」と呼ばれるもの。地域によって、頭だけを使い、イワシの身は節分の夜のおかずになる。また、豆まきの後、残った豆を自分の年齢の数だけ食べて年を越す。

鬼の苦手なものを集めた魔除けとして柗鯛を玄関や物置などに飾る。鬼は、イワシの匂いや柗のとがって痛そうな葉の形を嫌うといわれるためである。私の地域では柗鯛の他に、大豆の枝も飾るが、最近私の家ではこれを省略している。

私の地域である、青宿鹿島神社の例大祭（毎年12月中旬）に、「釜締め」という行事があり、正月用の神棚や外宮に飾る御札や神垂と同時に節分用の御札も頂



日光東照宮の節分祭

く。その御札は「塞三柱大神諸災防禦攸」（読み方は自信がないので、すみません。どなたかわかる方教えてください。）節分の日の夕方にこの御札を柗鯛と共に飾る。調べたところ、塞三柱（サエノミハシラノオオカミ）は、3人の神様で、イザナギノカミが黄泉の国で、イザナミに追いかけて「これ以上は来るな」と言って投げた杖から、生まれた神だという。

古事記では、イザナギ（男神）とイザナミ（女神）夫婦が日本国を産んだ（創造した）後、風の神、空の神などを産んで、最後に火の神を産んだ時にイザナミは焼<sup>よみ</sup>くとして死んで、黄泉の国に行ってしまう。イザナギはどうしても妻イザナミに会いたくて、黄泉の国に行くのだが、そこにいたイザナミは化け物のような姿に変わっていて、恐ろしくて逃げるイザナギを追いかけてくる。必死で逃げたイザナギは、黄泉の国から現世に戻り、死者の国の穢<sup>けが</sup>れをを洗い流す。これが、禊<sup>みそぎ</sup>祓<sup>はらえ</sup>で、その場所は「笠紫<sup>ちくし</sup>の日向<sup>ひむか</sup>の橘<sup>たちばな</sup>の小門<sup>おど</sup>」の阿波岐原<sup>あわぎはら</sup>」。

笠紫は九州。日向は、日向の国（宮崎県）説と、日に向かう地であって特定の場所ではないという説がある。橘と阿波岐は木の名で、小門は水辺。



戸守札と柗鯛（秀則宅）

この禊によって <sup>あまてらすおおみかみ</sup> 天照大神、  
すさのお つくよみ  
素戔嗚、月読などが生まれた。天照は天  
の国である高天原、月読は夜の国、素戔嗚  
は海原と、それぞれが支配地を与えられ  
る。

話は古事記から節分の御札に戻るが、こ  
の御札を玄関など扉の近くに飾ることによ  
って、塞三柱が災いや疫病から家を守ら  
せられている。

この御札は「ともり（戸守）札」と呼ん  
でいる。



日光輪王寺の節分会

寺では節分会、神社は  
節分祭という。

道灌の手植る由来の梅林

早梅やわが一族の祖は管家

梅の春蕾の数だけ匂いあり

梅の香にまた問う祖神東風の歌

祖を祀る社の梅枝を牛に添え

長南俊春